

●三位一体後第四主日

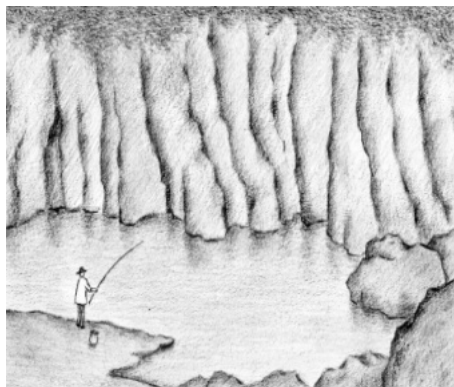
泉のほとり

今月の詩編「第百十一編」

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。



御言葉を行う者になりなさい

ヤコブは「御言葉を行う人になりなさい。聞くだけで終わってはなりません」と教えます。聞くだけで「実」がない教会の現実を見たのでしょうか。そして「御言葉を聞くだけで行わない者は、鏡に映る顔を見て立ち去り、忘れてしまう人に似ています」と説きます。神のことばという鏡に映される自分に課題があるのを見ているが放置し、やがて忘れてしまう。それは自分を欺くことだと戒めているのです。

自分を欺かず「自由をもたらす完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、行う人です」と語ります。「自由をもたらす完全な律法」とは主イエスの十字架による福音です。使徒パウロはガラテヤ書で、律法の下にある人を奴隷のように描きました。ヤコブもその意味を踏まえ、あえて「自由をもたらず」と表現したようです。

多くの人は「律法は人に厳しいから、束縛するもの」と感じています。しかし、主イエスの教えのほうがかもつと厳しいのではないのでしょうか。「迫害する人のために祈りなさい」と言われました。「殺すなと命じられている。誰でも兄弟をばか、愚か者と言う者は最高法院、火の地獄」と語られ、心の中の憎しみや妬み、見下す心までも禁じています。律法に隷属する人には行い得ないものです。原因は内側にあります。人の中の憎しみや妬みから解放されるなら、「殺すな」という律法も守れるのではないのでしょうか。そして、私たちは記憶しています。十字架のことばは人の内側を清め、悪を捨てさせ、よい業に生きる者へと変える神の力であることを。

主はマタイ18章で一万タラントを帳消しにしてもらった家来のたとえを語られました。これは永遠に返せない負債、罪を赦された私たちの話です。そのために主が十字架で「代価」を支払われました。

律法は「人にしてもらいたいことをしなさい」という言葉に集約されます。主は「人にしてもらいたいことをする人」

にではなく、一万タラント帳消し「してもらったこと」を私たちの土台に生きる者としてくださいました。その赦しがありに大きいため、人を赦し、迫害する者に対しても祈ることを当然のことにして生きるのです。たとえ今そうなつて

いなくても、そのキリストの心に変えられていくことを願い、生きるのです。

ヤコブは「自由をもたらす完全な律法を一心に見つめよ」と語りました。十字架のことばを知れば知るほど自分の顔を見て見なかったことにはできず、自分を欺くことはできません。主イエスの御業を見つめ、恵みにふさわしく歩もうとするのです。律法に隷属している人は聞くだけで行い得ません。しかし、自由をもたらす律法に生かされる人は聞くだけで終わることができないのです。

ヤコブは続けて「舌を制することができず、心を欺くなら、その信心は無意味です」と言います。舌を制することは人の悲願です。これまでどれほど舌によつて過ちを犯したことでしょう。実に舌は多くの試練をもたらすものではなかったのでしょうか。ヤコブは「愛する兄弟たち」と呼びかけ、キリストが与えた完全な律法を鏡のように見つめるよう促しています。それに照らされ、舌や内側の悪を見てそのままにせず、私の口から出るものも変えられる完全な律法に頼るようにと教えています。しかし、すぐに「完全になれ」とは言っていない。ただ、自由をもたらす律法を一心に見つめ、そこから離れず、自分の課題を認めることから始めよと勧めているのです。

「孤児ややもめを世話し、世の汚れに染まらぬことこそ、神の前に清い信心」とも語りました。自分の欲に支配される人、大言壮語の口の人にはできず、御言葉に照らし、自分の顔を見つめた者でなければならぬことです。主のために命を捨てよとは言わず、身近な、小さな者に仕える「行い」を勧めています。そこに、主のために命を捨てる生き方、知恵が示されているのです。

十字架のことばが「自由をもたらす完全な律法」として与えられました。これを一心に見つめ、聞くだけで終わることなく、父の御心を行う者となっていきましょう。自由をもたらす律法の力をさらに知り、力強く歩んでまいりましょう。

(ヤコブ一章二・三・二七節黄允湜牧師)

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 本日は諸聖徒記念礼拝です。

○ コイノニアキャンプの準備会をカナルルームで行います。参加者及び関係者の方はご出席ください。

今後の準備会の日程は左記の通りです。

七月二三日(水)

○ キリスト品川教会教規を皆さまの状差しに配布しました。

○ 八月に夏季バイブルスクールが予定しています。

日程は左記の通りです。

八月四日(月)、五日(火)、十一日(月)。

※ 十一日は聖書通説会

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会は休会です。

《教育奉仕委員会より》

主日礼拝後、一二時より地下ホールで交わりの会を行います。コーヒーと茶菓を一〇〇円で販売いたします。お時間のある方はお集まりください。

《シオンの会より》

七月一六日(水) 一〇時三〇分～一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します。)

テキスト「使徒言行録を読もう」P.三〇 四堂々と御言葉を語れるように(四章一～三一節)を読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

（司・会）の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百十一篇】

ハレルヤ。

わたしは心を尽くして 主に感謝をささげる

正しい人々の集い、会衆の中で。

主の御業は大きく

それを愛する人は皆、それを尋ね求める。

主の成し遂げられることは榮え輝き

恵みの御業は永遠に続く。

主は驚くべき御業を記念するよう定められた。

主は恵み深く憐れみに富み

主を畏れる人に糧を与え

契約をとこしえに御心に留め

御業の力を御自分の民に示し

諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

御手の業はまことの裁き

主の命令はすべて真実

世々限りなく堅固に

まことをもって、まっすぐに行われる。

主は御自分の民に贖いを送り

契約をとこしえのものと定められた。

御名は畏れ敬うべき聖なる御名。

（司・会）

主を畏れることは知恵の初め。

これを行う人はすぐれた思慮を得る。

主の賛美は永遠に続く。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「パウロを捕らえた主イエス」

聖書 使徒9章1〜9節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「神を恐れ、正しいことを行う人はみな」

聖書 使徒10章1〜16節

説教者 宮間彰広 兄

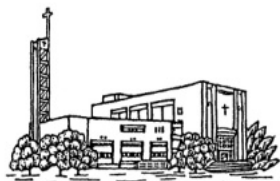
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 72番 294番

説教 「立ち上がり、歩きなさい」

聖書 使徒3章1〜10節

説教者 吉村和雄 名誉牧師





諸聖徒記念礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 12番 270番
説教 「神と共に歩いたので」
聖書 創世記5章1～24節(旧約 P.7)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「キリエ、聖霊なる神」J.S.バハ

○讃美歌12番

1. めぐみゆたけき主を ほめたたえまつれ
そのみいつくしみは ときわにたえせず
すくわれしみたまよ おごそかにうたえ
「あわれみとまことは かわることなし」と
2. なやみせまるときも み名をよばわれば
主はこたえたまいて この身をばすくい
いとひろきところに いこわしめたもう
主ともにましませば われにおそれなし
3. くつるものをすてて みくににあこがれ
ひとにたよらずして みちからをたのみ
わがすくい わが主をつねにしたいつつ
よろこびのうたもて 御名をほめたたえん

アーメン

○聖歌隊による讃美

「この世にあかしをたて」 R.V.ウィリアムズ作曲

1. この世にあかしをたて
御前に憩い集う
聖徒ゆえ御名を褒めん
ハレルヤ ハレルヤ
2. 聖徒の後に続き
雄々しかれ 兵(つわもの)らよ
御冠(みかむり)受くるまで
ハレルヤ ハレルヤ
3. 海よりも 陸(くが)よりも
歌いつつ 御門(みかど)に入(い)らん
父 御子(みこ) 御霊(みたま)の主
ハレルヤ ハレルヤ

○讃美歌270番

1. 信仰こそ旅路をみちびく杖 よわきを強むる力なれや
こころ勇ましく 旅を続けゆかん
この世の危き 恐るべしや
2. わが主を頭と 仰ぎ見れば ちからの泉は湧きて尽きず
めぐみ深き主の 御傷みまつれば
わずかに残る火 ふたたび燃ゆ
3. 主イエスの御跡をたどりゆけば けわしき山路も安けき道
いかで迷うべき などで疲るべき
ますぐに御神へ 近づきゆかん
4. 信仰をぞわが身の 杖と頼まん するどき剣も くらぶべしや
代々の聖徒らを 強く生かしたる
御霊を我にも 与えたまえ アーメン

聖餐曲「讃490 あまつみくには」 D.ウット

後奏曲「ものみなこぞりてみ神をたたえよ」L.スミス